

SSKU

お元気ですか?  
**イリアンソス**  
です。

2010



「2月に行われた  
成人を祝う会 & 交流会」  
の様

## 理事長の散歩道

### 特集

「**ねがいを叶えよう**」

**その為に新法をつくろう!**

「**障害のある人達が地域で**

**安心して暮らしていくために**」

**連載 この街の自立支援法⑥(最終回)**

「**～わが街でやらなければならないこと～**」

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18

042-473-9027

042-473-9036 (F)

iriansos@qg8.so-net.ne.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51

042-451-0252

042-451-0262 (F)

kanae@yg8.so-net.ne.jp

●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47

042-472-7130

042-444-3722 (F)

na0317@zc4.so-net.ne.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7

042-476-3400 (F兼)

umi-sora@dj9.so-net.ne.jp

理事長の散歩道



## 悠久の命の流れに 活かされて

社会福祉法人イリアンソス  
理事長 山田耕一郎

天空の山の稜線はまだ白雪がしつかりと輪郭を描き、里の麓に近い山肌は、灰色がかかった残雪に枯褐色の楊子を突き刺したような空間が広がっている。晩冬の早朝、「つばさ101号」で山形に向かった。東京を六時過ぎに発つと、九時過ぎに山形に着く。山形の用事は台湾の友人の目の治療とつき合う為であった。

「五十億年」と「三十八億年」  
車窓から野山や家並みを照らす朝日の輝きを見ながら、ふと50年前の衝撃を思い出した。私が東京学芸大学に養護学校の教員として養成されるために入学して、大脳生理学とか心理学とか教育学とか専門の勉強が始まった、驚くことばかりであったが、特に地学の授業の中で生涯忘れられない数字に出会った。「50億年！」それは、太陽が出来てからの年数で、残りも丁度50億年と決まっているとの事であった。自分の寿命が

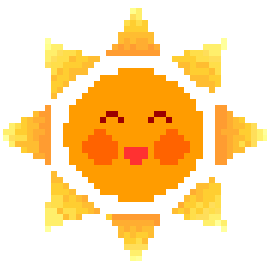
5〜60年くらいとしても、太陽に寿命があったとは、初めて知って狼狽した。太陽は永久不滅に地上のものを照らし続けてくれるものとはかり思っていた。次に、「38億年！」今から38億年前に生命の源になる水素や、酸素や諸々の物質が誕生して、以来脈々と継承されて、今私たちの遺伝子の中に、その時の物資が組み込まれているのである。筑波大学名誉教授の村上和雄氏の「遺伝子が目覚めるとき」の講義を拝聴して、衝撃を受けた第二弾であった。

自然のめぐみに活かされて  
つばさ101号の車窓に流れる南東北地方の景色を眺めながら、まだ何一つ春の彩りが始まっていないが、太古から繋がっている命の不思議さに、想いを巡らした。

50億年続いた日の光と、それを追うように誕生してきた生命製造の物質の38億年の生成しつづける恵み。この環境におかれながら、更に「70%の水」に生かされて、生きていることを百才の和尚、松原泰三氏の「生きて生かされて活きる」の講話を聴いて知った。水は「方円の器に従う」とも言われ、その素直さ、従順さは人生の生き方を示唆するもの

としても知られている。そして、水の働きも大きい。「水に筋骨の力なきも、良く万石の船をのせる。」特に、今年は世界の思わぬところで、洪水や津波の恐ろしさを知った。

車窓に見る里から、山にセットバックしている雪も、やがては消えて地に潜り、春から初夏への彩りを演出してくれるであろう。今年はこのほか寒さの厳しい春と冬の行きつ戻りつが続いた。それも落ち着いて新緑の初夏が訪れた時、私たちは38億年間の命の流れに生かされるたった一人の大切な自分と、たった一度の人生をかみしめ「生まれたことは、活きるためだ！」と、今日の一日を抱きしめよう。子も障害を持ちながら、学校生活を終わり、社会という同じ基盤に立った。ゆったりとした時の流れの中で、仲間と、家族と楽しく、明るく、生かされ、生きて行ってほしい。



# ねがいを叶えよう

ケーキ作りに込めた思い  
「お客さんの喜ぶ顔が力になる」

のぞみの家のチャレンジドリームズ班は総勢9名の個性豊かな仲間たちです。パソコン入力やビーズ作り、バザーなど毎日、大忙しです。年度の初めの自治会で、それぞれの仕事の担当を決めています。「〜がしたい」「お給料がもっとほしい」など意見は活発です。

その中の一つ、ケーキ班は現在4名の仲間です。ケークキは現在4名の仲間です。ケークキはバザーや地域の施設やお祭り、特別支援学校の文化祭などで販売をしています。

一人ひとりのケークキ作りに対する想いは強く、仕事を通して、その姿はたくましく変わっていつています。

そんなケークキ班の皆さんを紹介してみたいと思います。

## ●木下美樹さん

実習の際、ケークキ作りを見学して「自分も作ってみたい!」と思ったそうです。

とても慎重に一つ一つ丁寧に作っています。

今ではケークキ班のまとめ役です。ケークキ班会議では、みんなの意見を聞いて売り上げアップの方法や新商品の開発を積極的にしています。



## ●菜美さん

昨年の10月頃に「私もケークキを作ってみよう」という一言で米粉のシフォンケーキ作りを始めました。のぞみ内での販売が好評で本格的に作ってみようということになりました。

今年のバレンタインデーでは20ホール以上の注文が来ました。

朝から帰るまでケークキ調理室で黙々と作っていました。その姿にスタッフが思わず「どうしてそんなに頑張れるの?」の問いに、「お客さんが喜んでくれるから」と笑顔で答えてくれました。



現在も新作のシフォンケーキ作りに奮闘中です。試作ではなかなか上手くいかないこともありませんが、材料の分量や焼く時間など何度も調整しながら作っています。

### ●松木裕一郎さん

実習の際、ケーキ作りを見て「僕も作ってみたい。」材料やレシピも完ぺきに覚えていて、手際良く作ります。ケーキ班会議でも「ブルーベリーとイチゴのチーズケーキが楽しいです！」と毎回答えられます。



### ●湊久美子さん

ケーキ班のみんながケーキを作る姿を見て「私もやってみよう。」と2年前

にケーキ班に参加しました。「イチゴのチーズケーキが作ってみたい」と意欲満々です。

きっかけは自らが「ケーキ作りをやりたい！」という強い思いから始まりました。決してやらされていいるのではなく、それぞれが楽しんでケーキを作っています。その強い思いに引張られるようにスタッフも日々頑張っています。もちろん、仕事に対する責任や苦勞もありません。それでも頑張れるのはケーキを楽しむに待っていてくれるお客さんがいるからです。

ケーキ作りの仕事を通して自分の意見が言えたり、自分に自信が持てるようになったりしています。「こんなことができた！」という経験から自信につながって、「今度はこんなことをしてみたい！」という願いにつながってきているように感じます。「もっともっとと挑戦してみたい！」夢は大きくひろがります。

### 生活寮での楽しみ

#### 『金曜日のお楽しみ』

生活寮での楽しみは、おいしいご飯、一日の疲れをいやす入浴、みんなとテレビを見たり、ワイワイ・ガヤガヤ騒いだり。もちろんみんなそれぞれの楽しみもあります。

今回は多田鉄太郎さんの個人の楽しみを紹介したいと思います。記事にするということですが少し緊張していた多田さん、ありがとうございます。

4月23日・金曜日。当日は多田さんが通う「のぞみの家・チャレンジ班」の月一回のレクレーションの日でした。行き先はイオンモール・ミューで昼食。その後場所を移してボーリングとの事でした。少しお疲れ？の多田さんに、「ボーリング楽しかった？」と聴くと、「うん。102ピン倒したよ」とニッコリ。

それでもレクの楽しみと寮での楽しみは別物。毎週金曜日はコンビニへ行って、お酒やおつまみ、雑誌などを買って金曜の夜を自分の部屋で過ごします。そう、金曜日は週一回の晩酌デーなのです。

出発前にお金の確認。「今日の予算は1000円かな。残りは貯金する」と多



田さん。「貯めたお金はどうするの？」と聴くと「小田急ロマンスカーに乗るためだよ」と別のお楽しみを教えてくださいました。

当日は雨降り。寮の自動車でコンビニへ。限られた予算内で買いたいものを組み合わせ缶チューハイにおつまみ、雑誌を購入。残りは貯金へ。

寮に帰って夕食。リビングでテレビを見て待っています。少し遅れて夕食を食べている職員の花形さんを交えてバカ話。リビングに笑いがたえません

入浴を終えサツパリしたところで時間は21時。そろそろ晩酌にしましよるか！今日は私も勤務が無いのでお付き合いをすることにしました。

自室に戻りミニテーブルをセットして、二人で「おつかれさまー」とカンパイ！



ラジオの野球中継を聞いたり、昔のアニメのDVDを見たり。多田さんと私は一歳違いの同世代。自然と会話はなつかしの野球・テレビ・アニメ談議に花が咲きます。

楽しい時間はあっという間に過ぎて時間は22時。「じゃ、ボチボチ帰るね。今日はありがとう！」「今日はありがとうね。また来週！」

その後もしばらくお酒とDVDを楽しんでいた多田さん。他の曜日は次の日に仕事があるため控えている晩酌ですが、休日前の金曜日は、一週間の締めくくりも含めておいしいお酒を飲んでいきます。いつもは一人で飲んでいますが、また一緒にお酒を飲みましょう！

## 「障害のある人達が地域で

## 安心して暮らしていくために」

社会福祉法人かがやけ福祉会  
常務理事 菅原広樹

### はじめに

社会福祉法人かがやけ福祉会は、「寅さん」や「両さん」で知られる葛飾区にあります。

1978年に日曜作業所として始めました。1980年に作業所を開所（6畳・4畳半）、約17年間の無認可作業所の後、1997年に法人認可されました。現在、2つの通所授産施設と3つのケアホーム、区からの受託事業の緊急一時保護事業を運営しています。

### 制度とかがやけ福祉会

無認可作業所の時は、補助金が少ないため自主財源作りが大変でしたが、認可されると今度は、都や区に制度が変わるたびにそれに翻弄されてきました。

かがやけ共同作業所が開所した1997年は、国は措置制度で、東京都には公称格差是正制度がありました。ところが、国の基礎構造改革が進む中、東京都は1999年で是正制度を廃止してしまいました。

2003年には、措置費から支援費に

なり、職員の給与の昇給財源がなくなり、厳しい経営を強いられることになりました。

2004年に開所した第2作業所は、計画中は措置制度でしたが、開所した時は支援費になっていて、当初の見込みより減収になってしまいました。

そして、そのわずか2年後に障害者自立支援法が施行されました。この制度の応益負担はもちろんです。この制度の払いは特にケアホームの経営に深刻な影響を与えました。都の補助金が改正されて何とか経営できている状況です。

### 新しい制度に向けて

障害者制度の改革や新法制定に向けて、「障がい者制度改革推進会議」が発足し、総合福祉部会で「障がい者総合福祉法（仮称）」制定に向けての話し合いが始まりました。政府と自立支援法訴訟団との合意文書では、2013年までに新しい制度を制定することが明記されています。

新しい制度に望むことは、サービスの無料化はもちろんです。まず、障害のある人達が社会的なハンディを感じずに生活できるようにして貰いたいと思います。そのためには、生活するために

必要な制度の拡充と自由な選択、そして必要な分だけ上限無く使えることが大切だと思えます。

地域間格差も無くして欲しいと思います。地域活動支援事業は、特に地域間格差が大きくなっています。その地域の実情に合わせるといのが、行政の財政事業や障害者福祉に対する意識によって左右され、本当にその地域の障害がある人達の実情に合ったものにはなっていません。

事業所の経営でいうと、日払いを月払いに戻すこととともに、まず、事業所を維持していくのに充分な報酬を支給して欲しいと思います。かがやけ福祉会の通所施設はまだ、新制度に移行していません。これは、例えば第2作業所ですと、利用者数や作業内容が全く同じでも、新制度の就労支援B型に移行すると約2000万円の減収になります。（9割保障でも1000万円減）これでは、移行後の安定した運営は望めません。

あらためて、障害者自立支援法が実態に基づいていないことが感じられます。新制度の策定にあたっては、当事者の意見を良く聞き、机上の施策でない、実態に則した制度にして貰いたいと思います。

## 連載

### この街の自立支援法⑥

くわが街でやらなければならないこと

4月21日東京地裁において、障害者自立支援法訴訟が終結しました。当初は、5年以上かかる裁判になる覚悟をしていました。こんなに早く終結したのは、政権交代も1つのキッカケでありましたが、これまでの全国一丸となった運動の成果ではないでしょうか。

ところで、わが東久留米市も市長が変わりました。これで社会福祉が充実していくのかなと思いきやなかなか難しいようです。以前の稲葉市長も2期目から本領発揮されていましたので、馬場市長にもがんばってもらいたいものです。

しかし、政治とは関係なく東久留米で暮らす障害のある人たちの暮らしを支えていかなければなりません。暮らしを良くしていくためには、自分たちで多くの人と「運動」をしていくことが、今回の自立支援法の教訓ではないでしょうか。

#### ○地域生活支援事業の利用者負担について

障害者自立支援法の廃止を明言した現政権によって、4月からの低所得者の方たちは利用負担が無料になりました（低所得とは区市町村民税非課税世帯の方たちです）。

同じ自立支援法で、市の裁量で行われてきた地域生活支援事業（移動支援や日常生活用具などが含まれる）も、三多摩ではほとんどの自治体が4月から無料になりました。

## 法人行事

前号でお知らせしました『のぞみの家作品展』が、2月2日～5日まで市役所向かいのスペース105にて開催されました。

お陰様で多くの方々にお越し頂きまして無事に終了することが出来ました。お越しいただきました皆さま、関係者各位、お手伝いしてくれた方々、この場を借りまして改めて御礼を申し上げます。

今回の作品展も宜しくお願いいたします。

後記日程でそれぞれバザーなどを行います。ぜひ、みなさんお越しください。

『リサイクル久留店』くるてん：のぞみの家のチャレンジ班が中心となって、手作りケーキなども販売しています。

場所…滝山団地センター前広場

日程…6月10日(水)24(水)

時間…10時～14時

※雨天の場合は、中止となります。

『ポーナズバザー』：活動センターかなえのはな班が中心となって品物の回収・値付け、販売をしています。売り上げが利用者のポーナズに反映されます。

場所…滝山団地センター前広場

日程…6月17日(木)29日(火)、

7月6日(火)20日(火)、

8月3日(火)24日(火)、

9月7日(火)21日(火)

時間…10時半～12時

※雨天の場合は、中止となります。



しかし、わが市は、有料のままです。移動支援は、知的障害や精神障害の方たちの外出の支援で、一人ではなかなか目的地に行かれない人たちが利用しています。日常生活用具は、紙おむつや住宅改修などへの補助です。紙おむつは、寝たきりの方たちにとっても必要なもので、しかも毎日使うので負担は少なくなりました。移動支援は、5月に行われた議会でも、野党の自民党が移動支援について取り上げたところ、移動支援だけが無料になりました。これは有難いことですが、他の事業も無料にすべきです。

### ○東久留米市立東中学校の特別支援学級について

東中学校の特別支援学級の存続が危ない！支援学級に通う子どもがいけないことが理由のようです。なぜでしょう？特別支援学級に通う子どもいなくなつたわけではありません。殆どの子が中央中学校に転入し、中央中の特別支援学級が満杯になっているようです。だれも通う子どもがいなくなれば東中学校の特別支援学級もなくなりませんが、かろうじて、今年度は数人の子どもが通い存続することになったようです。なぜこの様な状況にいたってしまったのでしょうか。学級がなくなってしまうのは子どもたちや親です。

今からでも遅くはありません。次の世代にも安心して福祉や教育が受けられる地域づくりをみんなの運動を通して作り上げていきましょう

磯部 光孝

## ご寄付を

### いただきました。

(4月30日まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。  
いただいたご寄付は法人各施設の充実に、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

崎原ひとみ様

藤田祐子様

宮内滝子様

イトーヨーカ堂労働組合

東久留米支部様

ありがとうございます。

## 編集後記

この法人の広報誌が刷新されてから2年がたちました。法人の各事業所の「広報担当」の職員で編集委員会をつくり、話し合いながらつくっています。「出来るだけ、障害のある人たちの姿をつたえたい」と、話し合いの中でも、利用者みなさんの話で盛り上がり、事業所に通って仕事をしていること、寮での暮らし……。たくさんの方の姿がありますが、「障害のある人たちの願いを実現する」支援

がどこまでできているか？そんなことも編集委員会で議論あります。

「たくさんの方々に読んでいただきたい、知らせたい」と思っています。成長しているのは編集委員かもしれません。ぜひ、広報誌のご意見をお寄せ下さい。

活動センターかなえ 多田由美



編集委員会から…

表紙を飾る作品を募集しています。

「ぜひ表紙を飾りたい」という方のご応募をお待ちしています！

### 《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会  
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21  
Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

### 《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス  
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18  
Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

### 《 編集委員会 》

安達 聡、池田苗生子、磯部光孝、金野博志、  
多田由美、矢島正樹、吉田遊佑



定価 一〇〇円